

2020年10月11日証詞応答 ※何方でも参加できます。roba1970@purple.plala.or.jpまで。

+今日も無事に主日を迎えられることに感謝します。毎週先生のお話が伺えるのは嬉しい事だと思っています。先週からルツ記が始まりました。実はあまり好きではない話なのですが、先生のお話を伺ってどう変わるか楽しみにしています。今日の部分に関しては嫁姑がお互いに相手を思いやる優しい気持ちで決断していくという事で納得がいきました。ナオミが年取っていけば私でも一人故郷に帰すことはできないだろうと思います。日本ではつい最近まで封建的な家族制度が残り様々な悲劇が生まれていました。義務感ではなく人間対人間として当時の人々が判断したとすれば、その違いはどこにあったのかと改めて思います。千葉道代

+先週の新宿御苑に続き、今日の生田緑地も雨でなくよかったですね。皆さん沢山お集りのことかと思いますが、私は明日の健康診断に備えて神妙に過ごしました。ルツ記のナオミとルツの悲しみの中の「選択と決断」は本当に美しく感動的な物語になっていますね。自分のことを考えますと、人生第一回目の決断は、高校2年の時の「受洗」であったかと思っています。キリスト教の家ではありませんでしたので、親はキリスト教系の学校には入れても、洗礼となると戸惑いがあるようで、すぐに賛成してくれませんでした。それでもそこを何とか突破したようで、その時は思いもよらなかったのですが、13年後には妹も同じ道に導かれ、生涯の信仰の友が与えられました。古野明美

+応答を送ろうとメールを開いて、息が止まりました。しばらくタイトルを見つめたまま体が震えて本文が開けませんでした。いつかはとは思いながら、こんなに早く神さまがご呼びになるとは……。しばらく心を落ち着かせてから、賈先生のお知らせを読みました。4週間という時間をただお一人ベッドの上で過ごされたのですね。入院されるしばらく前に夫が電話を差し上げました。その時私もほんの少しお話しできて「無理な治療はしないで、あとは神さまにお任せして静かに過ごそうと思っている」と、いつもと変わらぬあの温かな張りのあるお声でおっしゃっていました。病院のベッドでは、コロナでお会いにはなれない百合子さん、二人のお嬢さんとそのご家族のことを繰り返し思い、そして神さまとずっと対話なさっていたのしょうね。旅立たれる前の二日間、百合子さんとの時間を過ごされたこと、お嬢様とも面会なされたこと、ほんとによかったです。最後の日までこの世の平和の問題にとことん取り組まれて、喜びの内に天に迎えられる素晴らしい坂さんのお姿に打たれます。

ルツの物語。どの道を選ぶか。差別・攻撃・否定・争い・・・蔓延る悪の中で、自己よりも他を愛することのできる者に近づけてくださいと、祈りつつ進みたいと思いました。泉谷五十鈴

+突然の悲しいお知らせにただ残された百合子さんと娘さん達が神さまの恵みにより、心癒されてくださる事を切に願っております。息子達も子供の頃、修養会でお目に掛かった時の事をよく覚えていて、ご冥福を祈りますと伝言が有りました。特に龍哉は大人になってから彼女を百人町に連れて行った事があるので、隆志より思い入れが深いようです。ただ、その彼女とは10数年付き合いの後結婚しませんでした。そんな事もあって、百人町は敷居が高いようです。隆志は、阿蘇先生に結婚式の司式をして頂いているので、二人とも心の中では、百人町と繋がって居るようです。ただ今は心が閉ざされているようで、無理には教会には誘っていません。いつか時が来たら、百人町に行ってくれる事を願っております。賈先生も、ずーっとお休みなく毎週証詞お疲れ様です。50周年の記念日にはだいぶ前から予定が入って

いて、参加できそうもなく残念でなりません。皆さんによろしくお伝えくださいますようお願いいたします。**尾池 幸**

+ルツ記のお話、とても興味深いです。自己犠牲ではない思いやり…すべて失うような厳しい状況で、自分がこのような心持ちになられるだろうか。ただナオミの選択と決断に「面子」があったということは、共感できました。そして、ルツがナオミと共にし、オルパは自分の里に帰ったと聞くと、オルパは愛や信仰が足りないのかと思いがちですが、オルパに対する評価・判断は書かれていない、オルパの選択も尊重されているというのは、思い至らない指摘でした。飢饉から逃れたモアブの地で、ナオミの夫と二人の息子が亡くなりましたが、男3人が皆死に、女3人が皆生き残りました。特に若い息子の死が気になります。戦争があったのでしょうか。ルツ記のこの先も、どう読み解けばいいのかいろいろ気になり、期待しています。**石田美智代**

+ 1ルツ記を読み、賈先生のお話を聞いての私の受けた貴重な感想。美しい話だが、事態は深刻であった中での話。嫁姑間の話ではなく、人類普遍の人格の話。キリスト教の根幹である愛が実は主題である。  
2 「ルツ」記と、女性の名を関した聖書は、ここだけ。確かにそうですね。新約聖書にもない。男社会のユダ、イスラエル。そういう男社会の中でのナオミ、ルツの苦勞がしのべれます。

それに引き換え今日本では、女性が女性を殊更貶める杉田議員の発言が出る、これはまた超ド級の女性による女性の蔑視です。信頼と愛の中での女性の物語のルツ記とは正反対、恥ずかしい限りです。

3 最後に強調された人格、愛を通しての関係、人種、性別、貧富を問わず持ちたいと願っています。

4 永年の信仰の先輩、心からの親友、信友であった坂敬夫さん、聖日証詞を伺った翌12日のご召天のお知らせをいただきました。残念でたまりません。坂さんのあの時このときのお姿を偲び、お悼み申し上げます。百合子さんはじめご家族様に神様からの御恵みとお支えがありますようお祈りいたします。

5 今週は殊の外忙しくて、月、水木金と出勤、金曜は残業にもなってしまい、応答が遅れて申し訳ありませんでした。**小池健治**

+高校卒業以降は自分で選択し、自分で決断し、今まで生きてきたという自負はあるが、もっとちゃんと勉強すればよかった、教員として児童としっかり向き合えたのかと後悔することしきりである。いままも自肅生活の中でやるべきことに対して努力が足りない。

ナオミ、オルパ、ルツ、三人三様の生き方があり、どの生き方も尊重されると思う。「あなたの民はわたしの民、あなたの神はわたしの神」はルツの心であり、ナオミの心である。二人の関係は嫁と姑の関係ではなく、人と人との関係、自分の人格が相手を動かす。神を信ずる者は神の心を持ちなさい。危機の時こそ、選択することが鮮明に分かれるとの話で、分かったような分からないような私にはまだ十分に理解できない。しかし、自分の進むべき道は人に左右されるのではなく、自分でしっかり考えて歩んでいきたいと思う。

12日月曜日に生田緑地で久しぶりに賈先生や仲間達と会う事ができ、とても楽しかった。我が夫も参加し、人を見る目が辛口の夫が、「教会の人はみんなよい人だね」との感想でそれも嬉しかった。しかし、その日の午後7時に坂敬夫さんが逝去なさった後で知り、私たちが談笑しているその時に、敬夫さんが大変だったと思うと、何とも言えない気持ちになる。阿蘇道子さんに続いて坂敬夫さんも百人町教会か

らいなくなってしまうなんて本当に悲しい。入院中に敬夫さんから頂いたお見舞いのハガキを眺めながらご冥福を祈っている。今まで本当にありがとうございました。新谷照子

+今日の証詞は先週の続きで、嫁二人に実家に戻るよう勧めるナオミ、それを受け入れたオルパとあくまでもナオミに付いていくと言うルツ、三人三様の選択と決断の裏にある心はどういうことだったのかというお話でした。ルツはナオミを尊敬し好きだったのだらうと思います。この人と共に生きていきたいと思わせる魅力がナオミにはあったのでしょう。先生が言われたように、それは嫁だからなどという自己犠牲の我慢ではないのです。とにかく三人とも進む道を自分で選び決めたというところがすてきです。それは将来どうなろうと自分で責任を持つという生き方です。振り返ると後悔することはたくさんありますが、ある本に「後悔があってもその後の経験で塗り替えられる。だからいつまでもやる気と努力を失わなければ、後悔があってもそれから得た意味を見出すことによりそれらの経験が無駄でなかったと思える。」というような言葉がありとても励まされました。小島悦子